

『幼年時代の思い出』 ～ 『愛する人は 心強き人』 ～

2026 年 7 月 11 日『新渡戸稲造記念センター in 新渡戸記念中野総合病院』から 第 150 回【お茶の水メディカル・カフェ in お茶の水クリスチャン・センター (OCC) 】に赴いた。筆者は、別室で 3 組の個人面談の機会が与えられた。【2011 年 3 月 11 日 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が発生し、当時 OCC 副理事長であった榊原寛(1941-2020)先生が、2012 年に『お茶の水メディカル・カフェ』を始められた。1933 年 3 月 3 日に 三陸で地震の大災害があった。新渡戸稲造(1862-1933)は 被災地 宮古市等沿岸部を 視察したとのことである。その惨状を 目の当たりにした 新渡戸稲造は『Union is Power』（協調・協力こそが力なり）と 当時の青年に語ったと言われている。新渡戸稲造没 80 周年記念講演会(2022 年)が、『東日本大震災復興支援宮古講演会』として 岩手県宮古市で開催され、筆者は『新渡戸稲造博士 と がん哲学』のタイトルで講演を依頼されたことが 鮮明に思い出された。】

早朝、芹洋子の『四季の歌』を拝聴したので、7 月は夏の始まりであるので『夏を愛する人は 心強き人 岩を砕く波のような 僕の父親』を紹介した。筆者の父【樋野廉平(1921 年 1 月 24 日～2013 年 5 月 5 日)】&母【樋野壽子(1923 年 2 月 20 日～2019 年 6 月 3 日)】は、【現在では人口約 30 名、60%の空き家の故郷】の島根県出雲市大社町鶴峠（うど）（画像）の自宅で、安らかに 92 歳・96 歳の天寿を全うした。葬儀では、筆者は喪主として『天寿を全うし、地上の長い旅路を歩み、様々の責任を全うした両親には、深い敬意を払います』と挨拶をしたのが鮮明に思い出された。『地上では、故人の遺志を受け継ぎ 天国ではカフェを開催する』のが、筆者の大きな夢である。

父は婿養子で、貨物船やタンカーの機関長であった。母の兄達は、太平洋戦争で戦死し、末っ子の母が家を継いだ。そして、祖父の樋野卓郎(1888-1972)から家を継いだ末娘（母）の 3 人の子供（誉・誠・興夫）の末っ子の長男：筆者に『家を興（おこ）す = 樋野興夫 = ひのおきお = Origin of Fire』と命名されたと、膝に抱かれて聞かされた『幼年時代の思い出』が鮮明に蘇った。筆者は、小学生、中学生時代の夏休み、母と父の船に乗り、日本海、太平洋の船旅をしたものである。【鶴峠+鷺浦(さぎうら)=鶴鷺(うさぎ) 小学校、中学校】は、既に廃校になった（画像）。故郷は無医村であり、幼年期、熱を出しては母に背負われて、峠のトンネルを通過して、隣の村（鷺浦）の診療所に行った体験が、今でも脳裏に焼き付いている。筆者は『人生 3 歳にして医者になろう』（画像）と思ったようである。



1

赤ちゃんに向けた無邪気な愛を忘れない

OKIちゃん誕生！めでたし！

『種を蒔く人になちなさい』(いのちのことば社)より